

トロリー線
 右側 AC200V
 電灯線
 左側 DC100V
 信号線

阪神電車、旧1形車と旧神戸市電をイメージした車両です。
 2号車 レトロタイプ

軌間1067mm
 この幅は、JR線の規格と同じです。
 1067



六甲ケーブル下駅

大きな三角屋根の山小屋風デザイン
 創業当時は、山上駅と同じ様式で、建てられていましたが、昭和13年(1938)の阪神大水害で山から流出した土砂に押し流され、現在は2代目の駅になります。

特殊な車輪の構造により
 1号車は山下に向かっていつも左側を
 2号車は山下に向かっていつも右側を通るようになっています。



中間地点

伝統的なフェスティバルカラーが美しい車両です。
 1号車 クラシックタイプ



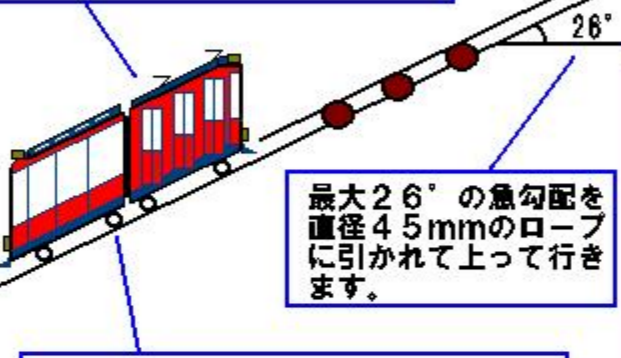
乗務員室

1号車 クラシックタイプ

近隣の駅百選にも選ばれた駅で昭和7年の開業以来その歴史を見守り続けています。



六甲山上駅



最大26°の急勾配を直径45mmのロープに引かれて上って行きます。



山下駅に向かって見た時



運転室

昭和7年製造の物で自動運転が主流の中現在このような古い機械を使用している所は少なく貴重です。



巻上機(プーリー)

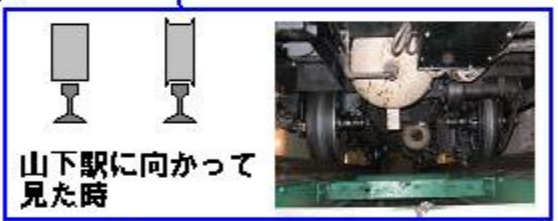


モーター



減速機

巻上機
 (モーター、プーリー、減速機などをまとめたものを言います。)



山下駅に向かって見た時



非常用ブレーキ

緊急時にはレールの頭部をシューと呼ばれる部品が上下左右からはさみ込んでケーブルカーを停車させます。

導輪
 ロープのガイド役で
 傾斜導輪195組
 直立導輪132組
 合計327組あります。



直立導輪



傾斜導輪

ケーブルカーのひみつ!?

ケーブルカーってどんな乗り物?

ケーブルカーは、1本のロープで繋がれ、簡単に説明すると井戸のつるべの様に、一方の車両を引き上げると、もう一方の車両が下りてくる仕組みになっています。ケーブルカー自体に動力はなく、山上の巻上場にある巻上機を使ってケーブルカーを引き上げています。ケーブルカーに繋がっているロープの直径は4.5mmあり、プーリーの直径は、その100倍の4.5mあります。

六甲ケーブルの歴史

六甲ケーブルは昭和7年3月10日に開業しました。現在の車両は、初代から数えて3代目の車両になります。ケーブルカーは何置にも安全装置が取り付けられており、とても安全な乗り物です。六甲ケーブルは2両連結で、最大200名まで乗車でき六甲ケーブル下から六甲山上駅までは、約1700m高低差、493.3mを約10分で運転しています。

